

令和6年度
厚生労働科学行政推進調査事業費（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

令和4年全国在宅障害児・者等実態調査（生活のしづらさなどに関する調査）における
調査の改善に関する意見・要望

自由記述式回答の分析

研究分担者 清野 絵 国立障害者リハビリテーションセンター

研究要旨

本研究は、令和4年全国在宅障害児・者等実態調査（生活のしづらさなどに関する調査）の自由記述式回答「調査の方法や内容の改善に関する意見・要望」（問37）に対する1,353件の有効回答を分析対象とし、回答内容の概要を把握することを目的とした。分析にはテキストマイニングおよび内容分析を用いた。その結果、回答者は、調査の目的や趣旨の説明、対象者の選定や基準の説明、調査票の配布方法や調査員の対応、プライバシー配慮、調査票や質問や選択肢のわかりにくさ、回答のしにくさ等を感じていることが示唆された。さらに、質問の量や内容、用語の難解さ、選択肢の妥当性、記入形式の煩雑さ等、調査票の設計に関してや特定の質問（問3、11、13、14、15、17、23、24、27、28、29、31、36）に対しての具体的な改善の意見・要望も確認された。これらの結果は、今後の全国在宅障害児・者等実態調査における設計・運用の改善にとって、具体的な示唆を提供するものである。今後、調査の方法や内容の検討や改善が期待される。

A. 研究目的

本研究は、今後の全国在宅障害児・者等実態調査（生活のしづらさなどに関する調査）の検討の基礎資料とするため、令和4年全国在宅障害児・者等実態調査において自由記述式で回答を得た、「調査の方法や内容の改善への意見や要望」の内容の概要を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

令和4年全国在宅障害児・者等実態調査のうち、下記の設問への回答を集計、分析した。

- 問37「この調査の方法や内容についての改善について、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。」

分析方法は、テキストマイニングと内容分析とした。テキストマイニングは、テキストデータを量的に分析する方法であり、データ探索と信頼性の向上に寄与すると言われている¹⁾。テキストマイニングに使用したソフトは、KH Corder 3であった。

（倫理面への配慮）

本研究は公的統計データの二次分析であるため、倫理面への配慮が必要な研究には

該当しない。

C. 研究結果

1. 調査の概要

令和4年全国在宅障害児・者等実態調査は、障害者施策の推進に向けた検討の基礎資料とするため、在宅の障害児・者等（難病等患者や法制度上の障害者ではないが生活のしづらさを有する方などを含む。）の生活実態とニーズを把握することを目的として実施されている²⁾。（1）調査の時期は、令和4年12月1日現在であった²⁾。（2）調査の対象は、全国約5,400の国勢調査の調査区に居住する在宅の障害児・者等（障害者手帳所持者^{*1}、知的障害、発達障害、高次脳機能障害、難病と診断されたことのある者、長引く病気やけが等により日常生活のしづらさがある者^{*2}）を対象とした。調査票配布数24,427人、調査票回収数14,631人（回収率59.9%）、有効回答数14,079人であった¹⁾。

※1 身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳

※2 本人またはその家族等から「眼鏡などを使っても見えにくい」「日常会話を聞き間違えたり、聞き取りにくいと感じたりすることがある」「歩いたり階段を上り下りすることが難しい」「思い出すことや集中することに困難を伴う」などの回答があった者。

2. 問37（調査の方法や内容の改善）の分析結果

（1）回答数と回答率

問37「調査の方法や内容の改善」に関する回答数は、2,054件（有効回答数を分母と

した回答率14.6%）であった。そのうち、「特になし」等の回答や、誤記入と判断できるもの、問37の設問への回答として該当しないもの（調査への感想やサービスの要望等）を削除した問37の有効回答数は1,353件（有効回答数を分母とした回答率9.6%）であった。

（2）頻出語

回答の概要を把握するため、回答のなかで多く出現する語（頻出語）を抽出した。下記に、出現頻度の上位100語を示す（表1）。

抽出された語のうち、一般的な語（例：「思う（475）^{*3}」や「感じる（95）」等）と調査内容に関連する語（例：「調査（332）」や「質問（289）」や「障害者（144）」等）以外を見ると、「多い（214）」「わかる（90）」「困る（86）」「大変（80）」「収入（30）」「精神（29）」「郵送（27）」等があり、それらが回答の内容に関連している可能性がある。

※3 語の後の括弧内の数字は、語の出現回数。以下、同様。

（3）共起ネットワーク

（2）の結果をふまえ、回答の概要を把握するため、（2）で抽出された語を使用して、回答のテキストデータについて共起ネットワークを作成した。共起ネットワークは、文章中に共起することが多い語、つまり出現パターンが似通った語を示し、データのテーマを探索する方法である³⁾。語を抽出する際の外部ソフトは、茶筌を使用した。次に、複合語の抽出に、TermExtractを使用した。分析は、文を単位として行い、語の文書の最小出現数は25とした。また、共起に使用する語は、上位60語とした。その結果、

表1 回答の出現頻度上位100語

	抽出語	出現回数		抽出語	出現回数
1	思う	475	51	支援	36
2	調査	332	52	意味	35
3	質問	289	53	訪問	35
4	多い	214	54	問	33
5	回答	208	55	今	32
6	人	179	56	今回	32
7	障害者	144	57	受ける	32
8	記入	140	58	選択肢	31
9	アンケート	112	59	読む	31
10	少し	111	60	収入	30
11	答える	108	61	補問	30
12	感じる	95	62	親	29
13	書く	93	63	精神	29
14	わかる	90	64	今後	28
15	困る	86	65	病気	28
16	本人	85	66	本当に	28
17	障害	84	67	声	27
18	内容	83	68	対応	27
19	生活	80	69	長い	27
20	大変	80	70	入る	27
21	良い	76	71	年	27
22	出来る	75	72	郵送	27
23	必要	73	73	高齢	26
24	聞く	69	74	家	25
25	理解	69	75	介護	25
26	持つ	68	76	配布	25
27	知る	68	77	少ない	24
28	インターネット	63	78	説明	23
29	自分	62	79	相談	23
30	お願い	59	80	分ける	23
31	調査票	59	81	違う	22
32	仕事	58	82	たくさん	21
33	難しい	55	83	問題	21
34	対象者	50	84	願う	20
35	言う	49	85	行う	20
36	家族	48	86	出る	20
37	改善	48	87	特に	20
38	項目	48	88	把握	20
39	対象	48	89	ポスト	19
40	高齢者	47	90	苦勞	19
41	調査員	47	91	現在	19
42	不安	47	92	身体	19
43	場合	46	93	得る	19
44	考える	45	94	有る	19

45	時間	45	95	利用	19
46	手帳	44	96	該当	18
47	意見	43	97	生きる	18
48	ありがとう	42	98	選ぶ	18
49	来る	42	99	無理	18
50	見る	41	100	目的	18

下記の語を含む7つのグループが作成された(表2)。

表2 共起ネットワークのグループ

	含まれる語
1	回答、インターネット、思う、調査、必要、支援、良い、受ける、不安、対象者
2	調査票、記入、本人、難しい、配布、家族、介護、親、解答、選択肢
3	質問、多い、分かる、理解、困る
4	調査員、訪問、家、聞く、意見
5	障害者、対象、持つ、障害、手帳、精神
6	高齢者、読む
7	仕事、収入、問、補問

次に、各グループに含まれる語が、文章中でどのような文脈で使用されているかを確認した。その結果、各グループには下記のような内容が含まれていた。

①グループ1

・インターネット調査

グループ1に含まれる語は、「インターネットで回答できると良いと思う」「インターネット調査にしたほうが良い」という文脈で使用されていた。これは、「インターネット調査」に関する意見と考えられる。

・問28必要と感じる支援の回答の選択方法

グループ1に含まれる語は、「必要と感じる支援は全て選択したい」「必要と感じる支援を絞るのが難しかった」という文脈で使用されていた。これは、「(問28の)必要と

感じる支援の回答の選択方法」に関する意見と考えられる。

・調査の目的や趣旨の説明、対象者の基準や選定方法の説明

グループ1に含まれる語は、「対象者となる人が同一世帯に複数人いた場合、誰を対象としたらよいかわからない」「本当に対象者として適切だったか」「対象者の基準があまりないで、回答する必要があるのかわからなかった」「本来は対象者ではないと思う」「調査対象者の有無を確認されることなく調査された」「なぜ調査対象になったのかわからず不安になった」という文脈で使用されていた。これは、「調査の目的や趣旨の説明」「対象者の基準や選定方法の説明」に関する意見と考えられる。

・調査項目の追加

グループ1に含まれる語は、「調査の対象者の環境等の項目が必要だと思う」という文脈で使用されていた。これは、「調査項目の追加」に関する意見と考えられる。

・対象や年齢を考慮した答えやすい質問

グループ1に含まれる語は、「調査対象者の範囲が広くて答えにくい」「対象者が〇歳のため答えづらい問いが多かった」「対象者が〇歳だったのでわかりづらかった。子供用と大人用を分けてほしい。」という文脈で使用されていた。これは、「対象や年齢を考慮した答えやすい質問」に関する意見と考えられる。

・調査時の配慮

グループ1に含まれる語は、「調査票を配る人に外で大声で障害のことを話され、不安で不快だった」「この家に障害者がいると把握されていると不安になった」「詐欺もあるのでこの調査も不安になった」という文脈で使用されていた。これは、「調査時の配慮」に関する意見と考えられる。

脈で使用されていた。これは、「調査時の配慮」に関する意見と考えられる。

②グループ2

・家族の回答の難しさ

グループ2に含まれる語は、「本人が記入できないため、その身になって考えるのは難しかった。できれば本人が記入できるものが良い。」「家族の思いと本人の意思がずれていることがあり答えに困る」「家族がこのアンケートに答えるのは難しい」という文脈で使用されていた。これは、「家族の回答の難しさ」に関する意見と考えられる。

・調査票の記入のしかたの内容

グループ2に含まれる語は、「調査票の記入のしかたと調査票のページ番号が違うので迷う。調査票の記入のしかたと調査票を同じページ数にしてほしい。」「調査票の記入のしかたと調査票のページが同じでない」といって調べづらい」という文脈で使用されていた。これは、「調査票の記入のしかたの内容」に関する意見と考えられる。

・質問が多く時間がかかること

グループ2に含まれる語は、「質問が多すぎて家族の介護もある中、時間がかかって難しい」という文脈で使用されていた。これは、「質問が多く時間がかかること」に関する意見と考えられる。

・選択肢

グループ2に含まれる語は、「本人が正直に答えられる選択肢が少ない」「解答の選択肢に当てはまるものがない場合の解答が難しい」という文脈で使用されていた。これは、「選択肢」に関する意見と考えられる。

・調査票の配布方法

グループ2に含まれる語は、「調査票の配

布が近隣の人で病気のことを知られ困った」「調査票の配布はポストインでよかったのでは」という文脈で使用されていた。これは、「調査票の配布方法」に関する意見と考えられる。

③グループ3

・質問の量、内容、わかりやすさ

グループ3に含まれる語は、「自分に関係ない質問が多い」「あてはまらない質問が多い」「本人の状態から選びにくい質問が多く困った」「難しい質問が多く理解するのに時間がかかる。内容がわかりにくく、言葉が複雑。」「重複する質問がありわかりにくい」「質問の量が多くわかりにくいので大変」「高齢者には質問の量が多く疲れてしまう」「質問が何個か、まわりくどい言い方でわかりにくいのがあった(月の収入の質問等)」「関係のない項目が多く、質問が長く理解するまでにあきてしまった」という文脈で使用されていた。これは、「質問の量、内容、わかりやすさ」に関する意見と考えられる。

④グループ4

・調査員の訪問や対応

グループ4に含まれる語は、「調査員の訪問を周囲に知られないようにする配慮がほしかった」「調査員の訪問を事前に予告されていたが、明確な日時がわからず、とても不安を感じた」「訪問した際に、調査員なのかセールスなのかかわからないので、留守だった場合はポストに調査員が来たことがわかるよう名刺などを入れてもよい」「訪問してきた人の声が大きすぎて、家の状況が近所に知られるかもしれなかった」「私の家に訪問して調査票を渡した後、近所の家へ訪問

していた。お互いに気まずい。」「調査員が内容をよくわかっていないようで、障害者がいる家だから配ったと思うのに、親(高齢者)のことを書けと言われた」「他の人には病気のことは言っていないし、知られたくないことなので、家に訪問はやめてほしい。」

「意見を聞いてもらえるのはありがたいがい、知らない人が家に直接訪問してくるのは抵抗がある」「職員が質問票を渡し忘れたと、家に全3回の訪問が少し多く、あやしい勧誘と思った」という文脈で使用されていた。これは、「調査員の訪問や対応」に関する意見と考えられる。

⑤グループ5

・質問の順番

グループ5に含まれる語は、「『手帳を持っていない方でも調査の対象となります』という趣旨を鑑みると、質問の順を変更すべきでないか」という文脈で使用されていた。これは、「質問の順番」に関する意見と考えられる。

・調査員の訪問や対応、プライバシー保護

グループ5に含まれる語は、「民生委員が来て、対象者はいますか？世帯主名や手帳を持っているか？何の手帳かなどを近所に聞こえる声で聞かれた。これなら断ればよかった。」「何の調査かわからないまま、手帳を持っている人はいるのかと聞かれた。調査員の選出を考えたほうがいいのでは。」

「調査員の持っているリストが見え、障害者のいる世帯の人数や住所が見えていた」

「冊子配布時に市職員に、世帯主の名前、障害者の有無、身体か精神かを聞かれメモをされたが、実態調査に個人名が必要か疑問に思ったし、プライバシー保護に違反して

いると思った」という文脈で使用されていた。これは、グループ4と同じく「調査員の訪問や対応」および「プライバシー保護」に関する意見と考えられる。

・調査方法

グループ5に含まれる語は、訪問されて不安、不快だった。手帳を持っている個人に郵送して調査するほうがよい。「行政側では手帳を持っていることがわかっているはずなので、調査票の配布は郵送でもよかったのでは」「身体・知的・精神の手帳を持つ人が対象なら、市町村の障害福祉課が窓口になり配布すればよい」という文脈で使用されていた。これは、「調査方法」に関する意見と考えられる。

・質問の理解のしやすさ、わかりやすさ

グループ5に含まれる語は、「質問内容が障害を持つ人に理解できる内容となっているか」「身体と精神の障害の両方の質問に答えるようになっていて、自分が対象かどうか分からない質問があった」という文脈で使用されていた。これは、「質問の理解のしやすさ、わかりやすさ」に関する意見と考えられる。

・調査の目的や趣旨の説明、対象者の基準や選定方法の説明

グループ5に含まれる語は、「障害者手帳を持っていない高齢者である自分に調査票が届いた理由がわからない」「手帳を持っている人が主な対象だと思った」「難病手帳を持っているが重症ではないので対象者なのかと疑問に思った」という文脈で使用されていた。これは、グループ1と同じく「調査の目的や趣旨の説明」「対象者の基準や選定方法の説明」に関する意見と考えられる。

・対象者

グループ5に含まれる語は、「ランダムではなく対象の病気を持つ全ての人にアンケートを配ってほしい」という文脈で使用されていた。これは、「対象者」に関する意見と考えられる。

・調査票

グループ5に含まれる語は、「自分に関係ないものが多く、身体と精神の手帳は調査票がわかれているとありがたい」という文脈で使用されていた。これは、「調査票」に関する意見と考えられる。

⑥グループ6

・高齢者の読みやすさ、わかりやすさ

グループ6に含まれる語は、「高齢者が読むには、わかりにくい質問があった」「高齢者は字も読みづらく大変」という文脈で使用されていた。これは、「高齢者の読みやすさ、わかりやすさ」に関する意見と考えられる。

⑦グループ7

・問29 収入を得る仕事の質問

グループ7に含まれる語は、「収入を得る仕事をしている障害者ばかりではない。選択肢が少なすぎる。(問29について)収入を得る仕事についての問いはあてはまらないことがあった。収入の総額が収入と年金の合計なのかわからない。」「問29を改善してほしい。収入を得る仕事の解説で、就労継続B型と日中生活介護が含まれていません。収入を得る仕事に加えてほしい。」「問29の補問の2,3が答えづらい。収入を得る仕事をしたいかしたくないかにかかわらず、回答はしたい。」「問29は、質問自体が収入を得る仕事ができる可能性がある人を対象としているように見え、したくても障害のた

めにできない人には答えづらい。」という文脈で使用されていた。これは、「問 29 収入を得る仕事の質問」に関する意見と考えられる。

(4) 内容分析

回答の概要を別の視点から把握するため、回答のテキストデータについて内容分析を行い、カテゴリ化と整理を行った。はじめに、調査の方法や内容の改善に関する類似した内容について、カテゴリを作成した。その際、回答数の参考とするため、関連する用語の使用頻度を集計した(表3)。次に質問番号が記載されている回答について、全ての内容を確認し、質問ごとの意見の整理を行った(表4)。

D. 考察

本研究では、令和4年全国在宅障害児・者等実態調査の自由記述式回答のうち、問37(調査の方法や内容に関する意見・要望)に焦点を当て、テキストマイニングと内容分析を組み合わせ、回答の概要を明らかにした。有効回答1,353件の分析から、調査実施の各段階において多様な改善の意見・要望が存在することが示唆された。テキストマイニングの結果からは、調査の方法や実施に関して、「調査の目的や趣旨の説明」「対象者の基準や選定方法の説明」「調査時の配慮」「調査票の配布方法」「調査員の訪問や対応」「プライバシー保護」について、被調査者に懸念や不安があり、改善の意見・要望があった。調査の目的や趣旨、対象者に関する説明は、調査協力の前提となるものであり、調査への理解を得るための改善が必要である。また、調査員による訪問時の対応

や個人情報の扱い方については、調査の信頼性や回答率を左右する要因となっている可能性がある。

次に、調査票の内容や構成に関する意見として、「質問が多く時間がかかること」「家族の回答の難しさ」といった課題があり、「調査票の記入のしかたの内容」「質問の量、内容、わかりやすさ」「質問の理解のしやすさ、わかりやすさ」「調査票」「調査項目の追加」「選択肢」「質問の順番」「調査方法」「対象者」「インターネット調査」が挙げられた。特に、「対象や年齢を考慮した答えやすい質問」「高齢者の読みやすさ、わかりやすさ」の意見・要望からは、高齢者や幼児、多様な障害特性のある回答者にとって、質問の理解のしやすさや回答のしやすさが課題となっている意見があり、配慮の必要性が示唆された。

具体的な質問項目に対しては、「問28必要と感じる支援の回答の選択方法」「問29収入を得る仕事の質問」に改善の意見・要望があった。

さらに、テキストデータを内容分析し、カテゴリ化することにより、回答者の関心は「調査の量」「調査内容」「調査形式」「実施方法」「調査対象」「調査時期」「調査結果」といった調査の広範な事項に及んでいることが確認された。また、質問ごとの意見・要望の整理では、問3、11、13、14、15、17、23、24、27、28、29、31、36について具体的な課題や改善の意見・要望が確認できた。

全体として、本研究から得られた調査の改善に関する意見・要望は、今後の調査設計・実施において、以下の4点の改善指針としてまとめられる。(1) 調査の目的や趣旨、対象者に関する説明の強化、(2)

調査の配布や回収に関する配慮の強化、
(3) 年齢、障害、過去や現在の状況に関わらず誰もが理解しやすく回答しやすい質問・形式の改善、(4) 調査結果の社会的意義と還元方法の明示である。特に、合理的配慮の観点からは、筆記等の運動・文字の視覚・文章理解等の認知や言語・意思確認のためのコミュニケーション等に困難がある人やその代理回答者への対応や、情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT) を活用した多様な回答手段の導入 (例：インターネット調査やオンライン入力) は今後の検討課題といえる。

E. 結論

本研究では、令和4年全国在宅障害児・者等実態調査における「調査の方法や内容の改善への意見や要望」に関する自由記述式回答を分析し、調査設計・実施・回答過程における課題を明らかにした。テキストマイニングと内容分析を通じて、以下が検討が必要な論点として示唆された。第一に、「調査や対象者に理解を得るための説明」である。第二に、「プライバシー保護を重視した配布・訪問体制」である。第三に、「年齢、障害、状況に関わらず理解・記入しやすい調査設計」が求められ、特に調査票や質問

のわかりやすさ、選択肢の回答しやすさの確保が要望されていた。第四に、インターネット調査を含む「多様な回答手段」の導入が、回答負担の軽減と回収率の向上に資する可能性がある。

本研究の成果は、今後の実態調査における設計・運用の改善にとって、具体的な示唆を提供するものである。回答者の視点を反映した方法論的検討が、調査を理解した回答による信頼性の高いデータ収集とその後の障害者施策の実効性の向上に寄与すると考えられる。今後、調査の方法や内容の検討や改善が期待される。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

引用文献

- 樋口耕一・中村康則・周景龍. 動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング. 2022. ナカニシヤ出版.
- 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課. 令和4年生活のしづらさなどに関する調査 (全国在宅障害児・者等実態調査) 結果の概要. 2024. (<https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/001259398.pdf>)
- 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析. 2021. ナカニシヤ出版.

表3 カテゴリー化の結果

カテゴリー	内容	関連する語の出現頻度
調査の量	<ul style="list-style-type: none"> ・質問、内容、文章、文字の量が多い、長い ・補問が多い 	量 (18) 多い (214) 長い (27)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・調査票が理解しづらい、わかりづらい、答えづらい、難しい (例：言い回しが難しい・何を聞かれているかわからない・問の意図がわからない・当てはまる選択肢がない・日常的な語の文にしてほしい・より詳しい説明が必要・例文をつけたらどうか・わかりやすい説明、補足が必要・問と補問の関係がわかりづらい。線を使うなど工夫してほしい。・補問という設定の仕方がわかりづらいので、回答方法を変えてほしい・入院中で回答しづらい・選択肢が少ない・選択肢が多い・回答できない質問が多い・対象者の範囲が広すぎる・年代別に分けてほしい・障害別に分けてほしい) ・記入の仕方がわかりにくい (例：1冊にしてほしい・ページ数を同じにしてほしい) 	理解 (69) わかる (219) 答える (108) 難しい (55)
調査形式	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が小さい ・調査票のふりがなが薄くて読みづらい ・色分けしたら見やすいのでは 	小さい (7) 薄い (1)
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで回答できるようになるとよい ・手書きでなくスマホで入力したい (例：スマホで回答したい・調査票にQRコードを掲載したらどうか) ・調査票は対面で渡すのではなく、郵送にしてほしい ・面接調査、対面調査、聞き取り調査がいい 	ネット (38)・インターネット (25)・オンライン (17) 郵送 (27) 対面 (9) 面接 (2)
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・調査対象でないのに配布された (例：障害がなく、生活のしづらさもない) ・家族への調査も必要 ・支援者への調査も必要 	家族 (48) 支援者 (2)
調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・年末はいそがしいので、時期を変えてほしい 	年末 (9) 時期 (11)
調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を知りたい ・結果がどう反映されるのかを知りたい ・結果を何に生かすのか、いつ知らされるのかもわからない 	結果 (36)

表4 質問ごとの意見・要望

問	意見・要望
問3 (性別)	<ul style="list-style-type: none"> ・「該当なし」がほしい ・「その他」や「無回答」がほしい ・あてはまる選択肢がない
問11 (難病)	<ul style="list-style-type: none"> ・質問がわからない ・難病なのかよくわからず、答えづらい ・指定難病の一覧があるサイトへ誘導するQRコードが欲しい
問13 (心身の状態)	<ul style="list-style-type: none"> ・中間の選択肢が欲しかった ・①…障害に関係してか、視力の低下を聞かれているのか迷った ・②…補聴器を使用しなくても聞こえる場合はどう答えるのか ・⑦…ボトルを持ち上げるのは両手か片手か ・⑨⑩…中間の選択肢が欲しい。わかりづらい。
問14 (日常会話の聞きとり)	<ul style="list-style-type: none"> ・どれを選択すればよいかわからない (小さい声も大きい声も聞こえるが、 なんとやっているかわからない)
問15 (生活のしづらさ)	<ul style="list-style-type: none"> ・大人と子どもを分けないと、答えにくい ・選択肢がわかりにくい ・⑫…わかりにくい ・⑬…わかりにくい
問17 (日中の過ごし方)	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりにくい ・当てはまる選択肢がない ・回答に迷った
問19 (同一世帯の方)	<ul style="list-style-type: none"> ・表現がわかりづらい
問23 (身体機能を補う用具)	<ul style="list-style-type: none"> ・問23の用具と問24の機器が同一のものを含むのか、別かわからない(例：補聴器)
問24 (意思疎通を支援する手段・機器・サービス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・補問…わかりづらい
問27 (障害福祉サービス)	<ul style="list-style-type: none"> ・補問(1)…証明書を見たが区分がわからない
問28 (特に必要と感じる支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・7つに絞るのが難しい ・次ページまで続いているがわからない
問29 (収入を得る仕事)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者には関係ない ・「働いていない」という選択肢がほしい ・障害のため働きたいのに働けない人には答えにくい ・就労継続支援B型も収入を得られるので入れてほしい ・補問…答えづらい・その他や当てはまらない場合の選択肢がほしい
問31 (医療を受ける頻度)	<ul style="list-style-type: none"> ・直接原因以外の通院先が複数あり、1つに絞れない ・②の「生活のしづらさと直接関連のない通院」の意味がわからない
問36 (生活のしづらさ、困っていること等の自由記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・もっといろいろ具体的に聞いてほしい